

大津市消防局 救急ワークステーション



救命率の向上及び後遺症低減を目指して！

平成28年4月から、大津市消防局では「病院派遣型救急ワークステーション」を運用しています！心臓や呼吸が止まってしまった時など、大切な命を救うためには、救急隊員の迅速で的確な救急救命処置が不可欠です。医療機関での救急隊員の教育システムが確立することにより、医学的な知識や技術の習得が飛躍的に向上します。

また、病院実習中の救急車に、医師や看護師が同乗することで、より早期に医療が開始され、救命率の向上及び後遺症の低減に寄与できます。

大津市消防局と市内医療機関の連携

滋賀医科大学医学部附属病院 大津赤十字病院 市立大津市民病院

市消防局と市内の3医療機関が連携し、より安心で安全な救急サービスを提供します！

お問い合わせ

大津市消防局警防課救急高度化推進室

TEL 077-525-9903

E-Mail otsu2363@city.otsu.lg.jp

病院派遣型救急ワークステーション

背景

救急需要増加への対応と早期医療介入

増加する救急件数と対応時間の延伸への対応、救急隊の病院実習確保が課題となっています。

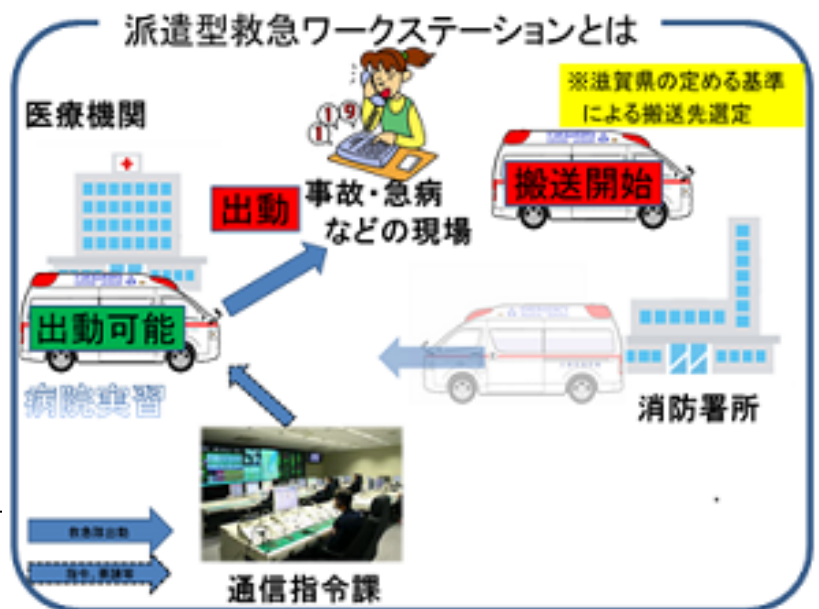
一方、早期医療介入を目指し、「ドクターカー」や「ドクターヘリ」など医療が現場へ出て行く体制作りが進んでいます。

救急ワークステーションでは、消防機関の救急車が病院へ出向し、病院実習を受けながら待機します。

待機中に出動要請がかかれば、救急隊とともに、医師、看護師が乗り込み現場へ急行！

必要に応じ処置を開始します。

通常の救急搬送より処置開始が大幅に短縮されること、待機中に救急隊が実習を行えることが大きなメリットです。



期待される効果

市民への効果

医師や看護師が、救急隊員とともに現場へ出動することにより、現場から医療が開始されることから、「救命率の向上」及び「後遺症の低減」につながります。

病院への効果

救急隊とともに現場へ駆けつけることで、早期医療介入が可能となり、現場から高度な医療が開始できるようになります。

救急隊への効果

救急現場での On The Job Training を受けられるとともに、病院内の実習は救急救命士だけでなく、全ての救急隊員の医学的教育の拠点となります。

運用状況

救急隊員教育と早期医療介入の両立を目指して

平成28年4月から「病院派遣型救急ワークステーション」の本格運用を開始しています。

協力医療機関



滋賀医科大学医学部附属病院



大津赤十字病院



市立大津市民病院

—早期医療介入の有用性—

医師が救急車に同乗して現場へ出動することで早期医療介入が実現しました。

通常の救急搬送と比較し、心肺停止症例の搬送中において約3倍の自己心拍再開率を得られるなど、高い治療効果が示されるなど現場からの高度な医療が功を奏した症例や、連携で救命できた症例など、早期医療介入の有用性が示されました。



—救急隊教育有用性—

平成29年度の運用状況では、救急隊の実習項目は3100回を超え、約180回のワークステーションで400件以上の救急出動を計上し、救急隊員教育の拠点としての有用性が示されています。

医師が現場で開始する医療行為に伴う費用が発生する可能性について救急隊が説明を実施し、必要となる経費等の詳細は看護師等から紙面で詳しく説明されます。なお、医療行為を拒否することもできます。

お問い合わせ

大津市消防局警防課救急高度化推進室

TEL 077-525-9903

E-Mail otsu2363@city.otsu.lg.jp